

平成 25 年度 自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校

中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がい児一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。
-------------------	--

今年度の 重点目標	1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実 2 自立を目指したよりよい社会参加と豊かな心の育成 3 豊かな自己表現力の向上
--------------	--

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果 10月	
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策
確かな学力の 定着を図る学 習指導の充実	(地) ①個々の発達に応じて言語の獲得・拡充を図る。 ②在籍園・在籍校と連携し、その子に応じたよりよい支援を提供する。	個々の聴こえの程度や発達の状態、その子を取り巻く状況によって、適切な言語環境下におかれていない幼児・児童・生徒や困り感が十分には理解できない保護者がいる。	①個々の発達に応じた言語活動の充実 ②在籍園・在籍校との日々の連携	①聴力測定や発達検査等を行い、その子に応じた支援方法を考え、本人、保護者、担任等に伝える。 ②理解学習等の研修、日々の学習支援について幼児・児童・生徒の実態や在園・在籍校のニーズに応じた支援を提供する。	・個に応じた教材を工夫して、話し言葉・書き言葉の両面から言葉の力を高めることができるよう支援した。聴力測定は必要に応じて随時実施した。 ・理解学習も要請があった全ての学校で行った。保護者との連携をはかるため家庭通信も回数を増やし情報提供・連携につとめた。	B 教員から保護者・在籍校(園)担任への連絡をさらに密にし、家庭・在籍校(園)とさらなる意思の疎通をはかり、子ども達の指導・支援の効果をいっそう上げていきたい。
	(幼) 直接触れる体験ができる環境や機会を設定する。	経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせまい。	いろいろな事象に興味・関心をもってかかわる。	①身近な事象に興味を持てるように、掲示物等を工夫する。 ②継続的に興味や関心を持てるような題材を工夫する。	生き物の様子を観察したり野菜を育て収穫したり身近な自然に触れたりする機会を多く作ってきた。直接触れる体験を通し、積極的に関わって発見を楽しんだり考えたりする姿が見られるようになった。	A 引き続き、季節に応じた場や活動を設定し、いろいろな事象に興味・関心を持って関わられるようにしたい。
	(小) 個に応じた学習指導を工夫、改善する。	①獲得語彙数は増えてきているが、文法力、読解力に課題をもつ児童が多い。 ②既習事項の定着が十分ではなく、復習に時間がかかる。	学年相応の学習内容の基礎基本が定着する。	①毎時間既習事項の確認の取り組みを行う。 ②つまづきの傾向について共通理解をはかり、支援方法について話し合う時間をもち、学習指導に活かす。 ③学習内容の定着を図るため、教室環境の工夫に努める。 ④児童の実態に応じた指導形態を工夫し、語彙数を増やしたり、文法力を高めたりする。	前時の学習内容を確認し、T1, T2で話し合いながら学びやすい授業を心がけた。また、学習中の内容を掲示することに努め活用した。さらに、合同学習では、実態に応じたグループ分けをしてその内容を工夫した。言葉を知っていても活用ができていないことが課題である。	C ・語彙数を増やすために児童の実態に応じて、トピックスで取り上げる事項や内容を精選する。 ・系統立てた文法指導を行い、正しい文を書けるように支援する。児童の特性にあった環境づくりを工夫する。
	(中) APDCAサイクルを活用した授業実践や教科指導の充実によって、学習に対する意欲を高める。	学習に対する意欲は少しずつ高まりつつあるが、学習方法がわからなかったり、家庭学習が定着しなかったりするため、確かな学力の定着には至っていない。	学習に意欲的に取り組み、学習方法を自主的に工夫したり、家庭学習に意欲的に取り組んだりしようとする。	一人一人の確かな実態把握と目標設定を行い、学部で共通理解をしながら、目標に沿った学習内容を計画していく。生徒・教師による振り返り・評価を行い、次時の学習に活かしていく。情報機器を取り入れて学力向上をめざす工夫をする。	教科学習における生徒のつまづきの分析等を行うとともに、板書の構造化、パワーポイントの活用等視覚的支援に力をいれてわかる授業の実践に努め、生徒の理解度が高まってきている。	C 分析したつまづきへの支援を次の授業に活かすことを継続する。「授業の工夫・配慮事項」を共通理解し、学習意欲を高める授業づくりを工夫する。
	(高) 自学自習の力をつけるために、個々の生徒に応じた学習指導法の改善・工夫をするとともに、家庭学習の習慣化の徹底を図る。	生徒によっては家庭学習の時間が1時間未満というときもあり、家庭学習が習慣化していない実態もみられる。学習への動機づけと同時に日々の授業において、その指導法を工夫し、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を培う必要がある。	①毎日、最低2時間以上の家庭学習を全生徒が行う。 ②年度当初より家庭学習時間を5割増加させる。	①常に進路を意識した学習への動機づけを全教職員で継続・徹底する。 ②個々の生徒の特性に応じた課題を共通認識し、指導法を工夫するための授業研究を行う。 ③家庭学習の内容や時間の確認を継続して行う。	家庭学習の習慣化は定着しつつあるが、一部の生徒で教師の指示した家庭学習のみに満足して、主体的な学習になっていない実態もある。また、個々の生徒のつまづきの内容を抽出し、具体的な指導法・支援方法の改善・工夫をすることで、生徒の学習意欲も高まりつつある。	B さらに家庭学習の内容や時間の確認を継続し、自学自習の必要性を意識させ、生徒の学習意欲の喚起を促す。個々の特性に応じた課題について、共通理解を行い、更に自主学習を喚起する方法や学習規律を統一するなど工夫する必要がある。
	(地) ①発達に応じた補聴器等に関した生活習慣が身につけられるよう家庭や在籍園・在籍校との連携を図る。 ②個々の状態に応じて聴覚障がいの理解学習等の研修を充実する。	聴覚障がい児に対するかわり方への正しい理解のなさや不安から適切な環境下で育ちにくい状況にある幼児・児童・生徒がいる。	①家庭や学校等との日々の充実した連携 ②保護者や家族、教職員等に対する聴覚障がい教育に関する研修の充実	①相談や連絡帳等を通して保護者や学校等と日々の丁寧な連携を図る。 ②計画的に保護者や学校等を対象として幼児児童生徒や在籍園・在籍校のニーズに応じた研修会を開催する。	・在籍校の教員・保護者等に対する研修会は要請があった場合はすべて実施した。また、研修会や理解学習の要請がない場合でも、担任の経験や児童生徒の様子など状況を見ながら、こちらから提案している。保護者との連絡もその都度行った。 ・幼児教育相談では、子ども同伴のためなかなか保護者の思いを十分に聞き取る時間がなく、日々の生活に根ざした連携が取りにくい部分があった。また、発達年齢が幅広いので個々のニーズに応えた研修・内容は集団の場では組みにくかった。	B 乳幼児教育相談では、出来る限り2人体制で当たり、保護者への支援も充実させていく。また、研修会の内容を増やし、事前に提示し、選択制にするなど、運営の仕方を工夫していきたい。
(幼) 幼児同士がかかわることができる場を設定し、かわり方を支援する。	かわり方に支援が必要であるが、友達と好んで活動する。	自分の思いを表現しながら、友達とかわることができる。	生活全般、特に、自由遊び、朝の会、給食の場面で機会を逃さず支援する。	学校生活全体に関わる機会を逃さないように意識して場の設定や支援の工夫に努めたことで同年齢の友達同士の関わりが深まってきた。	B さらに、異年齢の友達とも関われるような場の設定や支援に努めたい。	

様式 2

自立を目指したよりよい社会参加と豊かな心の育成	(小) 友達と協力し合う場をつくる。 公共の場できまりよく過ごす児童が増える。	①友達と意見を出し合う経験が少なく、主体的に判断し、友達と協力しあって活動することが少ない。 ②遠方から通学していて、地域とのつながりが薄い児童が多い。 ③公共交通機関を使って通学をしている児童が半数いる。公共の場でのマナーについては指導中である。	①自分の思いを伝えながら、友達と仲良く協力して活動する場を増やす。 ②公共でのマナーが向上する。	①合同で行う学習を行い、その中に児童同士が話し合ったり協力し合ったりする場面を設定する。 ②集団での学習指導の際には事前・事後指導を行い、学習の見通しをもち、めあてを意識し主体的に活動できるようにする。 ③児童の実態に応じ、機会をとらえてマナーについて指導する。	低学年が話し合いについていていない場面もあるが、事前指導でめあてを意識するよう活動を仕組むことで、子どもたちが主体的に取り組めた。 ・マナーについては、その都度指導を繰り返した。	C	マナーについては、機会をとらえて学部全体で協力し指導する。友達同士で協力し合うスキルを高める必要がある。集団で遊ぶ機会を増やす。
	(中) 職場見学、職場体験学習等の充実によって、将来の生活への意識を高める。	進路に関してははっきりとした目標は立っていない。職場見学、職場体験学習を経験する中で少しずつ近い将来や遠い将来へのイメージを持ちつつある。	高等部へのイメージを持ち、将来につながるために必要な学習へのイメージが持てる。職場見学、職場体験学習に目標を持ってのぞみ、自己の振り返りをする中で、自分の課題や次の目標を考えることができる。	学部会において子どもを語る時間を確保し、生徒一人一人の状況を把握する。一人一人の特性を見極めた進路に関する学習の充実を図る。保護者との連携を図り、進路に関する情報提供をしていく。	生徒たちは、職場見学・職場体験学習に目標をもって臨み事後自らの成果と課題を振り返ることができた。自らの進路について、しっかりと考えることができつつある。	B	生徒たちが、進路学習で得た成果と課題を学校生活の中で活かすことができるよう、進路学習を進めて、しっかりと考えることができるよう、進路について自ら考える機会を増やしていきたい。
	(高) 常に社会自立を意識させる生徒指導を徹底し、規律ある生活習慣を身につけさせる。	ほとんどの生徒はきまりを守り生活できているが、一部生徒に体調や精神面で時間規律が身につけていない実態もあり、社会自立に向けてさらに生活習慣を確立させる必要がある。	①家庭や寄宿舎との連絡を徹底し、連携を密にする。 ②常に進路や社会自立を意識させ、生徒の気持ちを受け止めながら、全教職員で生徒指導を徹底する。	①家庭訪問や懇談等を活用し、また寄宿舎とも連携しながら保護者に学校の指導を周知徹底する。 ②スクールカウンセラーの効果的な活用を図る。 ③学期初めに服装検査を実施する。	一部の生徒で体調や精神面で時間規律が確立できていない場面もみられたが、様々な支援により改善がみられた。基本的な生活習慣は確立されつつあるが、更に将来の社会生活における個々の生徒の課題を意識させながら、生活させていく必要がある。	B	家庭や寄宿舎とも更に連携を密にして、生徒の状況に関わる情報を共有して、学校教育への協力を得る努力をしている。また、情報モラルなど具体的な場面を想定した指導に努めたい。
豊かな自己表現力の向上	(地) ①保護者や本人が子どもや自分の障がいを理解し、適切な進路選択ができるように支援する。 ②コミュニケーション力の基礎を育成し、他者とかわり合いたいという意欲を育てる。	保護者も本人も障がいの受容ができず悩んでいることがある。また、障がいがあることで他者とのかわりが消極的になってしまうことがある。	①本人や保護者の気持ちを大切にしながら適切な進路及び研修の提供を行う。 ②本人の気持ちを受け止めながらよりよいかわりのモデルを提供する。	①自己理解の学習を進めたり、共に進路について考えられるように研修を実施する。 ②他者と楽しんでかわられるような活動を計画し、個別や集団等学習の形態を工夫する。	日々の指導では子どもたちに見通しが持てるよう、活動項目を提示するなどの支援をした。身近な内容から積み重ね、進路を考える基盤とすべく個に応じた指導を継続している。 ・同年齢の子どもの合同活動や夏の交流会・聴覚障がいのある先輩の話聞く会などを企画し、他の子どもとのやりとりが出来る場面や子どもの将来について考える機会等を設定した。出席した保護者や子どもからは概ね好評だったが、保護者同伴参加なので出席が難しい家庭もあり会の日程等に課題が残った。	B	・教育相談や通級指導の中で、発音や言語の指導だけでなく、障がい認識などの自立活動の内容も充実させていきたい。 ・乳幼児教育相談では、合同活動や在籍園などにおける集団の場での支援や活動などについても指導・支援を工夫したい。
	(幼) 心の動きを大切に、表現力を高める指導を工夫する。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、その気持ちを言葉で伝えることができず、トラブルになることがある。	朝の会の伝え合い活動で幼児が思いを表現できる。	①幼児の実態に応じたグループ編成をする。 ②幼児の思いをくみ取り、表現できるように指導する。 ③やり取りが活発になるように実物や絵等を提示し、話題の共有を図る。	個々の心の動きを大切に朝の会の展開を心がけることで、様々な出来事に関心を持ちながら伝えたい分りたいたい気持ちが育ってきている。	B	さらに、教師对幼儿、幼児同士のやりとりが活発になるような支援を心がけたい。
	(小) ①体験的な活動を学習に取り入れる。 ②友達と思いや考えを伝え合う場を設定する。	①自分の思いはあるが、うまく言葉で伝えられない場面がある。 ②友達の思いや考えを受けとめながら話し合いを進めることが苦手である。 ③少しずつ積極的になってきたが、自信がないために消極的な面がある。	児童が積極的に思いや考えを伝えるとともに、友達の話をよく聞いてやり取りする。	①学習の中に友達同士で伝え合う場面を設定する。 ②学習の中で「聞き方名人」「話し方名人」を意識した声かけを行う。（3年生以上は目標をもって取り組む。） ③具体的な伝え方の例を示したり、発問の仕方を工夫したりし、自信をもって発表できるようにする。	「聞き方名人」「話し方名人」を掲示することで、伝え合う言葉が児童に浸透してきた。友達の意見を受け止めて活かしたりまとめて結論を出したりすることにはまだ課題がある。	B	友達に分かりやすく伝えるために、手話を大きくする、話す速さを工夫するなどの意識が持てるようにする。発表の仕方についてのバージョンアップをする。
	(中) 集団活動において自分の思いを伝えようとする意欲を高める。	言葉を広く活用しようと努力している。しかし、語彙力が弱い傾向があり、積極的なコミュニケーションの定着には至っていない。集団活動における体験活動や話し合い活動を通して豊かな表現力をつけていくことを必要としている。	①自分の思いを仲間へ豊かに表現しようとする。 ②自信を持ってコミュニケーションがとれ、会話が広がる。	①一人一人の自立活動における目標設定に取り組む、目標に沿った自立活動や個別の学習を工夫する。 ②総合的な学習の時間や教科学習（音楽・体育等）における集団活動の場面を設定し、話し合い活動の中で自分の思いを表現する伝え合い活動を充実させる。	生徒たちは、鳥の劇場の指導を受け、自分の思いを表現することについて深く学んだ。他者の気持ちについて考えようとする姿が見られるようになり、話し合い活動ができるようになってきている。	B	生徒の自主性を尊重しつつ、教師が見本となったり、話し合いに参加したりする。自己のイメージが膨らむような伝え合う場と時間を授業内に確保する。
	(高) 職場見学や現場体験学習を活用し、体験的学習の充実させることで社会力を身につける必要性を理解させる。	実際に仕事を進めたり、職場の人間関係を円滑にするためのコミュニケーションが必要であることを具体的に生徒が理解できていない実態もある。	すべての生徒が実際の職場での体験学習を通して、社会力を身につけることの必要性を理解できる。	①現場体験学習後のまとめ学習を通して、達成できたかどうかの評価を行う。 ②現場体験学習をきっかけに、個々の生徒の課題を明確にし、社会力を身につけるための継続的な取り組みを行う。	現場体験学習では、評価と自己認識とにズレがある生徒の実態もみえてきた。今後継続的に学校において社会力を身につける取り組みを続ける必要がある。	B	キャリア発達支援段階表の具現化を継続し、生徒の特性をふまえて、自立活動を中心に学校生活における社会力を身につける取り組みを進めていく。また、高校生や大学生との交流を深めながら、社会力を身につけるために個々の生徒の課題を明確にさせたい。

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%） C：変化の兆し（60%） D：まだ不十分（40%） E：目標・方策の見直し（30%以下）